

“スタートアップ”部門 まちづくり活動計画書

1 助成を受けようとするまちづくり活動について

団体名	●●●（スリードット）
まちづくり活動名	持続可能なまちづくりスタディ
活動地域	名古屋市内
活動の背景	<p>（団体の立上げのきっかけや活動に至る背景をアピールしてください。）</p> <p>現在、団体のメンバーは、地域コミュニティや市民団体、企業等の組織に対し、いわばよそ者として関わり、成員の思いを大切にしながら、その地域や組織をよりよくするための支援をしている。当事者とは異なる視点や姿勢で、人やまち・組織の声に耳を傾け、働きかけることで当事者に変化が起これ、まちや組織の課題に自ら気づき、乗り越えていく過程を、共に体験することに仕事の意義を見出している。</p> <p>しかし、このような過程に至るまでにはとても時間がかかる。契約期限や経済的な理由（費用対効果など）で、途中で支援を中断せざるを得ないことが多く、継続的な支援を行うことは非常に困難であることを痛感している。このようなことは、他の中間支援者も少なからず感じている事ではないだろうか。</p> <p>また、地域活動や組織開発の取り組みの好事例について、中間支援者が情報共有する機会が少なく、支援者同士のネットワークの醸成や、取り組み事例の発信が、中間支援者の仕事に活かすことができる。</p> <p>持続可能なまちづくり活動のために、何ができるのか？その特効薬があるわけではないが、まずは、企業や、地域活動支援に取り組む人々の話や事例を多く知り、同じ関心を持つ人々と意見交換や学習の場があることは、持続的に地域に関わっていくためには、とても有意義であり、必要なことであると考えている。</p>
目的・目標	<p>（活動の目的と、活動により実現したい目標及び成果を具体的かつ簡潔にご記入ください。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■目的：地域活動の取り組みが継続的に行われるよう、また、支援者がその取り組みに関わり続けることができるよう、すでに地域活動支援に取り組む人々の事例や知見から多くを知り、同じ関心を持つ人々と意見交換や学習の場をつくる。</li> <li>■目標：地域活動に対する中間支援のあり方について、広く意見交換が行えるような場を勉強会として設け、その成果をシンポジウムやホームページなどのような形で提供する。</li> <li>■成果：中間支援者として、地域活動の継続を支える、地域住民からの信頼性の確保・活動の資金確保・組織の基盤づくりといった要素について、理解を深め、得られた学びから実践に結びつける。</li> </ul>

活動内容	<p>(上記の目的、目標に沿って、活動内容や実施方法を、具体的かつ簡潔にご記入ください。)</p> <p>■勉強会の実施  地域活動に対する中間支援のあり方についての理解を深めるため、以下の3つのテーマを設定し、勉強会を実施する。各回の勉強会には、そのテーマに沿った事例報告者を招く。(3~6回程度)</p> <p>テーマ①：「支援を継続するためのヒント」  —行政依存からの脱却  —合意形成の仕方  —中間支援者としての視点や姿勢、大切にしていること</p> <p>テーマ②：「ひと・まちのエンパワメントを目指した情報発信」  —情報の入手から発信までのステップ  —地域の変化やニーズの変遷の把握</p> <p>テーマ③：「地域活動支援の現場から」  —地域活動と生涯教育  —企業活動と人々の暮らしの狭間で(利益追求と地域貢献)  —地域活動の多様なアクターとの協働と未来</p> <p>■シンポジウムの実施  ・勉強会に招いた事例報告者が一堂に会し、勉強会で得られた成果・知見を発表する。  ・得られた成果・知見を巡って、参加者と共に対話をする。  ・持続可能な地域活動支援のビジョンを参加者と共に描く。</p>	
活動予定期間	平成 31 年 4 月 ~ 令和 2 年 3 月	
助成金交付申請額	50,000 円	※1回目(上限5万円) ※2回目、3回目(上限10万円)

## 2 まちづくり活動の視点

以下の視点で活動内容についてご記入ください。

<b>審査基準①  必要性</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に根ざしたまちづくり活動内容か</li> <li>・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か</li> <li>・活動の実施にあたって、まちづくり活動助成金が必要な活動か</li> <li>・活動メンバーのみの趣味や仲間づくりではなく、多くの人に理解や共感が得られる活動か</li> </ul>	
<p>(活動の必要性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。)</p>		
<p>■本団体の活動対象地域は名古屋市全域であり、勉強会では名古屋市内で活動する中間支援者を中心に意見交換を行う予定のため、そこでの話し合いの成果は各自の地域活動支援の場に必ず還元されると考えている。</p> <p>■名古屋市内で活動する中間支援者のネットワークの醸成をはかり、それぞれの活動における好事例を共有することで、各自の活動に有効に活かすことできる。</p> <p>■将来的には、ホームページやポータルサイトを活用した、情報発信・情報共有を検討している。</p>		
<b>審査基準②  実現性</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容が具体的になっているか</li> <li>・活動内容の資金計画などは妥当か</li> <li>・人員や規模などは妥当か</li> </ul>	

(活動の実現性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。)

- 助成の一環として、都市センターの打ち合わせスペースを定期的に利用することで勉強会の会場を確保し、低コストで活動計画を実施することができる。活動助成金により、外部の支援活動者への謝金や、広報費用（主にチラシ印刷代）にあてる。
- これまでの地域活動支援でつながりのある中間支援従事者を中心に勉強会への呼びかけを行う。少人数（最大 10 人程度）で対話を重視した勉強会を実施することで、経済的にも心理的にも無理のない実践が可能である。少人数での学びの場であるため、一人ひとりの考えや価値観を聞き合い、参加者同士の関係性の深化が多いに期待できる。
- シンポジウムのファシリテーターは、さまざまな教育現場において研修講師の経験を持つ本団体のメンバーが務める。
- 本団体のメンバーは、それぞれ社会福祉、教育、環境保全などの専門領域で学び、キャリアを積んでいる。学識者とのパイプもあり、必要に応じて、相談・助言を得ることが可能である。

**審査基準③** ・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか  
**発展性** ・活動実施後に、地域のまちづくり活動にどのような波及効果を及ぼせるか

(活動の発展性について、上記観点から分かりやすくご記入ください。)

**本団体の活動の今後の展開**

■ シンポジウムの企画：

上記テーマを元に、抽出された課題について、オープンな話し合いの場を設ける。

■ Web サイトによる情報発信：

勉強会で学んだ効果的な情報発信の手法を用い、勉強会の成果や、テーマに関連する事例紹介などの情報をオンラインで発信する。

**地域のまちづくり活動への波及効果**

■ 本助成金に申請した活動内容（勉強会とシンポジウム）を通じ、名古屋市を中心として地域活動の中間支援に従事する人々のネットワークを構築する。

■ 中間支援に従事する人々が気軽に集まり、日々の活動に関する情報交換や相談、必要に応じてテーマを設定した対話ができるようなサロンを定期的に開催する。

3 活動にあたり他団体（町内会、自治会他）、企業、行政の部署など協力する又は調整を図る必要がある場合には、その名称と内容を記入してください。既に連絡等を取っている場合にはその日付も記入してください。

名 称	内 容
現在、特になし	

※第 2 号様式は 3 ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本工業規格 A 4 とする。

## まちづくり活動の実施スケジュール

- ・活動の実施日だけでなく、それに向けた準備（団体の打合せ、広報）についても具体的に記入してください。
- ・1ページにおさまるように記入してください。

年	月	活動項目	活動内容
30	4	発足	今後の活動方針の検討
	5	打ち合わせ	活動計画案の検討
	6	勉強会①	以下の3つのテーマに沿った事例報告者を招き、勉強会を開催する。  テーマ①： 「支援を継続するためのヒント」 （まちづくりに関わる中間支援者） テーマ②： 「ひと・まちのエンパワメントを目指した情報発信」 （タウン誌の記者やネットニュースの投稿者等） テーマ③： 「地域活動支援の現場から」 （地域コミュニティや市民活動団体の担い手等）
	7	勉強会②	
	8	勉強会③	
	9	勉強会④	
	10	勉強会⑤	
	11	勉強会⑥	
	12	成果のとりまとめ	1～6回の勉強会で学んだことをまとめる
	31	1	活動成果の発信
2		活動成果の報告	活動のふりかえり 活動報告書の作成と提出
3		次年度に向けての打ち合わせ	次年度の活動の方向性を話し合う

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

## まちづくり活動の予算書

1 支出

計画書の活動における支出（予算）をご記入ください。

	費目 手引きの費目を参照	活動項目	内訳・算出根拠	金額 (円)
<b>まちづくり活動助成金（申請金額）</b> ※活動経費の内、助成対象となる経費が対象です。 ※上限金額：1回目は5万円、2回目、3回目は10万円				50,000
活動経費の内訳	謝金	勉強会	事例報告者（講師）6名×5,000円	30,000
		シンポジウム	講演者1名×10,000円	10,000
	消耗品	勉強会	事務用品（模造紙、付箋、マジックセットなど）	6,000
		シンポジウム		
	印刷費	シンポジウム	広報用チラシ 配布資料	2,000 2,000
<b>支出合計</b>				<b>50,000</b>

※1ページにおさまるよう記入してください。用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。